

選手の皆さん

サポートをいただいている皆さま

指導特別顧問・米倉加奈子

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、「STAY HOME」の生活を続けていらっしやることと思います。

さて、残念ながら、若葉カップ大会とABC大会の中止が決定しました。そのため、東京都予選もなくなりました。とくに最終学年である6年生には、つらいお知らせだと思えます。最上級生としての自覚や小学校生活の締めくくりとして臨む姿には毎年のように感動し、成長してゆく皆さんを頼もしく思っていました。そうした経験をする機会がなくなり、悔しい、悲しい、いろいろな気持ちになっていることでしょう。でも成長の歩みを止めないでほしいと強く思い、今回、皆さんへの私の経験談をエール代わりとしてもらえればと、メッセージを伝えさせてもらいます。

私は、高校生のとき、全国大会優勝を目指し、親元を離れ下宿生活をしていました。もちろんハードな練習の上、食事・洗濯当番もあり、テレビを見るのも禁止などの自由がないバドミントン漬けの毎日でした。つらいことも、目標があったからがんばれました。でも、ケガをしてしまい、選抜大会、インターハイと大きな大会には出場することもできませんでした。ただ、治るのを待つだけで過ごさず、みんながゲーム練習をするコート6面を見渡せる、監督席の後ろで見学させてもらうことにしました。試合をする選手たちに声をかける監督の目配りを観察するためです。声かけされたタイミングで修正できると、流れは自分のものになっていく。ターニングポイントで、どう指示しているのか？ そうしたことを監督から学ぶ時間になったのです。相手の心理、状態をつかみ、自分がどうするべきか。コートの外から中を見た経験は、技術、パワー、スピードで劣る私にとっては、世界で戦う際、大きな武器となりました。1998年のバンコク・アジア大会、当時ランキング1位と3位の中国選手に勝って、金メダルを取りました。シドニーオリンピック、アテネオリンピックの出場にもつながったと思っています。オリンピックではメダルに届きはしなかったものの、生きていく上で大切なことが身につけられました。目指していた試合に出られず苦しかったあのとき、くさらずに、何ができるかを考え、行動したことが、世界と戦う武器を作れたし、次につながった！と、思うのです。

だからこそ、『くさるな！』『自分の強みを作ってほしい』と、皆さんにメッセージを送ります。そして、『STAY HOME』を守りながら、プレーができるようになったときに思いっきり楽しめるよう、今できるトレーニングに励んでください。

保護者の皆さまにおきましては、難しい情勢ですが、心のケアも含め、引き続きサポートしていただきますよう、よろしくお願い致します。

事態の早い終息と皆さまが心身ともに健康に過ごせることを願っております。